

環境分野の平成19年度概算要求の主要事項

平成19年度概算要求額：97,169百万円
 (平成18年度予算額)：67,684百万円
 ※運営費交付金中の推計額を含む

背景

- **京都議定書の発効**(平成17年2月)：第1約束期間(2008～2012年)における温室効果ガス削減目標(6%)の達成。
- **気候変動イニシアティブ**(平成17年7月)：G8グレンイーグルスサミット時に小泉首相が発表。アジア太平洋地域を中心に衛星から海洋、陸上に至る統合的な観測網の構築を推進するとともに、より高精度の気候変動予測を目指す。
- **気候変動枠組条約第11回締約国会議**(平成17年12月)：「気候変動の影響、気候変動に対する脆弱性及び適応の科学的、技術的及び社会的側面に関する5ヵ年作業計画」の採択。
- **IPCC(気候変動に関する政府間パネル)**：2007年上半に完成が予定されているAR4(第4次報告書)の成果を踏まえつつ、その後の研究成果に基づき、AR5(第5次報告書)策定を進め、2013年の完成を目指す。

環境分野推進戦略研究領域

- 気候変動研究領域
- 水・物質循環と流域圏研究領域
- 生態系管理研究領域
- 化学物質リスク・安全管理研究領域
- 3R技術研究領域
- バイオマス利活用研究領域

総合科学技術会議「第3期科学技術基本計画」及び「分野別推進戦略」(平成18年3月22日)

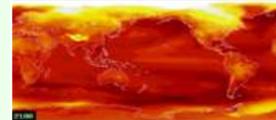
総合科学技術会議「地球観測の推進戦略」(平成16年12月27日)

地球温暖化をはじめ地球環境問題によるリスクの予測・把握とその対策に向けた地球環境科学技術の推進

平成19年度主要プロジェクト

地球変動予測研究及び国際的な総合観測戦略に基づく地球観測の推進

- ◆ **世界最高レベルの「地球シミュレータ」を活用した地球温暖化・気候変動予測モデル開発などによる地球変動予測研究の推進**
 - ・ 確度の高い温暖化予測情報を影響評価、対策の立案や政策の決定の場に提供
 - ・ 特に近未来(30年程度)の極端現象(台風・集中豪雨等)の解析については自然災害分野の影響評価への適用性を実証
- ◆ **地球観測サミットで採択された「10年実施計画」に対する我が国の貢献及び総合科学技術会議策定の「地球観測の推進戦略」に基づく地球観測システムの統合化、高度化**
 - ・ データ統合・解析システム(国家基幹技術「海洋地球観測探査システム」の一部)、地球観測システム構築推進プラン 等



衛星観測



陸域観測技術衛星「だいち」

極域観測



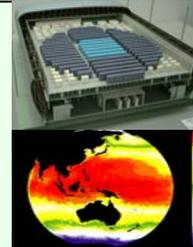
南極観測船「しらせ」

海洋地球観測探査システムの一部



観測データの集約
データ統合・解析・提供

地球シミュレータによる予測・シミュレーション



予測精度の向上

環境対策技術の研究開発の推進

- ◆ **安心・安全で快適な社会構築のための環境対策科学技術の推進**

- ・ 一般・産業廃棄物・バイオマスの複合処理・再資源化プロジェクト



- ・ 環境分子科学研究
- ・ 航空科学技術の研究開発

